

# 上宮寺通信

第五十一号

## 「ご恩」のわかる人

京都の紅葉が見ごろになる頃、東本願寺では報恩講が始まります。宗祖親鸞聖人をはじめお念仏の教えを受け継ぎ伝えてくださった方々のご恩に感謝し、お念仏に出会えたことを喜ぶのが報恩講を勤める意義であります。

「恩」には「めぐみ」「いつくしみ」という意味があります。『仏教語辞典』によると、古代インドのパーリ語の「カタンニユー（なされたことを知る者）」の訳語とされ、「恩とは、何がなされ、今日の状態の原因は何であるかを、心に深く考えることである」と解説されています。

ところで、日本では一般的に使われる「恩」という概念ですが、欧米人にとっては非常にわかりにくいそうです。もちろん、他人から何かしてもらった時、それに対して「ありがとう」という感謝を表す言葉はあるのですが、「恩」というような感情を表現する言葉はあまりないのだそうです。

ある先生が「なぜ念仏の教えが説かれたのか」というと、念仏申す中から『ご恩』のわかる人に育ってほしいと願われたからだ」と言われました。

私たちは「あれが欲しい」「これが足りない」と不平不満の毎日を過ごしていますが、ご恩のわかる人に育てられると「ありがたい」「もったいない」という

感謝の毎日にかわるのです。

日常生活の中で「ありがたい」「もったいない」というご恩を感じる事ができるようになってほしい。これこそが仏様の願いです。

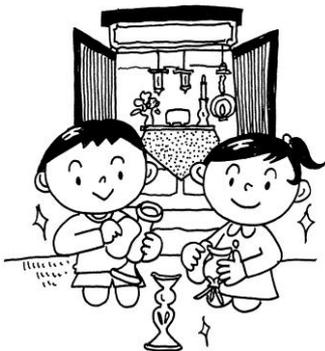
また、こんな話を聞いたことがあります。

小児がん病棟で七夕まつりを行ったときのこと。子供たちは一生懸命に短冊に願いを書きま

す。病気がない子どもならば「デイズニールランドに行きたい」とか「ゲームが欲しい」という願いが書かれるでしょう。でも小児がんの治療をしている子どもたちは「学校に行ってみたい」「お父さん、お母さんと一緒にいたい」「大人になりたい」……

「私たちは、彼ら（彼女ら）にしてみれば夢のような時間を過ごしているのではないのか」と、担当のお医者さんは言葉に詰まったそうです。

「ご恩」がわかるとは当たり前前と思っていたことが当たり前でなかったと気づくこと。私のいのちも当たり前ではない。毎日の生活も当たり前ではない。そのことに気づかせてくれる機会が報恩講でもあるのです。



◆行事案内

上宮寺の行事

報恩講

11月8日(火)

午前10時〜正午頃

法話 伊奈祐諦師

(西尾市安楽寺前住職)

※マスク着用にご協力ください。

※お齋(食事)、呈茶はございませんのでご了承ください。

本山報恩講団体参拝(日帰り)

11月24日(木)

東本願寺報恩講(連夜)参拝、

妙心寺・退蔵院見学 他

参加費 一四、〇〇〇円

定員 30名(定員になり次第締切)

※これらの行事は今後の新型コロナウイルスの感染状況によっては変更する場合があります。

修正会

1月1日(元旦)

午後2時〜

元旦の午後2時から本堂にて『正信偈』のおつとめをいたします。今回もビンゴ大会と、甘酒やお抹茶のふるまいは中止させていただきます。

なお、修正会にお参りできなくても、元旦の午後1時〜3時の間は、本堂ならびに納骨堂を開放いたしますので、どうぞ年の始めに上宮寺にご参詣ください。

◆話題あれこれ

○11月8日の報恩講は今年も午前だけの法要となります。感染対策として窓を少し開けたりしますので、天候次第で寒いかもありません。防寒対策もお願いします。

○今年は寒い冬になると予想されています。コロナ第8波とインフルエンザも心配です。お身体を大事にお過ごしください。



【雑感】

今月21日から28日まで京都東本願寺で報恩講が勤まります。今年は名古屋が雅楽担当で私も楽僧として参勤させていただくことになりました。コロナ前は東本願寺に宿泊できたのですが、感染防止のため宿泊はダメとのこと。各自で近隣のホテルを手配しなくてはなりません。このことがわかったのが約2ヶ月前。すぐに東本願寺近くのホテルを予約しました。そして現在、全国旅行支援のおかげ(?)で同じホテルの同日の宿泊料金がかなりの高額に!これって便乗値上げ? (住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和三十九年白銀一丁目十九番十五号

☎052-871-0547